

令和5年度第1回大分県ツーリズム戦略推進会議

日時：令和5年6月2日（金）
11：00～12：00
場所：コンパルホール3階
300会議室

〈次 第〉

1 開会

2 協議事項

- (1) 県内宿泊客等の動向について
- (2) 令和4年度大分県ツーリズム戦略関連事業実績
- (3) 令和5年度大分県ツーリズム戦略関連事業の取組状況

3 閉会

令和5年度第1回大分県ツーリズム戦略推進会議出席者一覧

令和5年6月2日（金）11時～

【委員】

（敬称略 50音順）

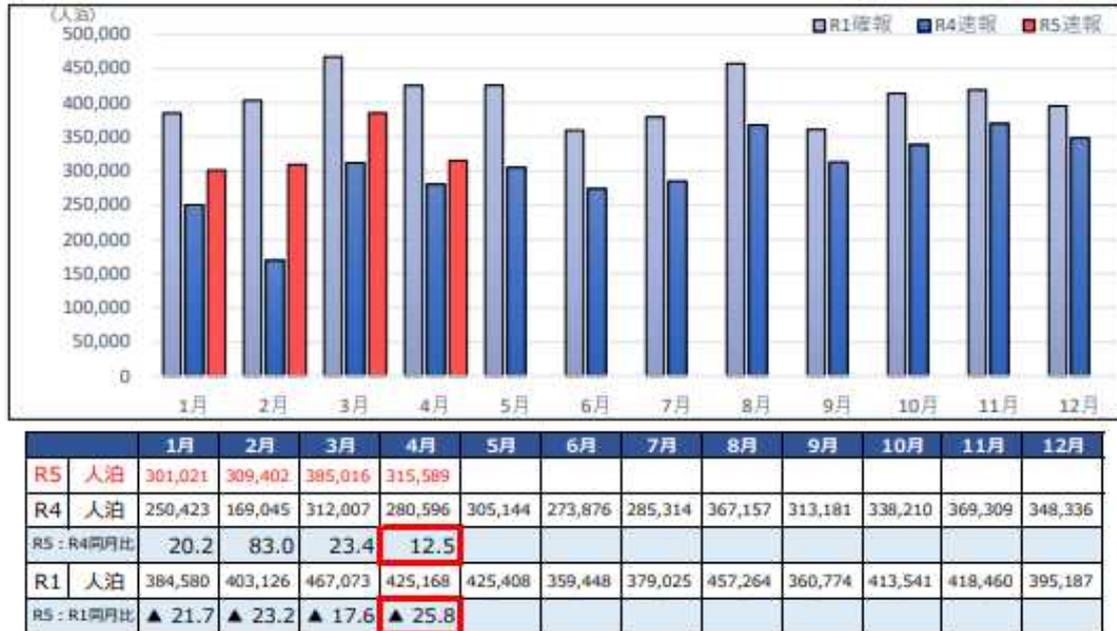
	氏名	所属	役職	備考
1	麻生 くみ	株式会社翼（caffel ひなのさと）	代表取締役社長	
2	安倍 美緒	竹姫	代表	
3	飯倉 里美	株式会社みょうばん湯の里	代表取締役	
4	釘宮 浩三	社会福祉法人博愛会 住吉浜リゾートパーク	園長	
5	桑野 和泉	株式会社玉の湯	代表取締役社長	欠席
6	佐野 真紀子	株式会社日本政策投資銀行 大分事務所	所長代理	
7	千壽 智明	合資会社海地獄	代表社員	
8	高寄 和弘	一般社団法人大分県バス協会	会長	
9	高良 真理	ANAインターコンチネンタル別府リゾート&スパ	総支配人	
10	田口 永依子	有限会社やせうま本舗 田口菓子舗	専務取締役	
11	西田 陽一	大分県旅館ホテル生活衛生同業組合	組合長	
12	二宮 謙児	有限会社山城屋	代表取締役	
13	橋本 均	株式会社マリーンパレス	代表取締役社長	欠席
14	廣原 武史	株式会社JTB	大分支店長	
15	福田 まや	星庭	代表	
16	古田 浅男	一般社団法人佐伯市観光協会	事務局長	
17	吉野 敏成	九州旅客鉄道株式会社	執行役員大分支社長	欠席
18	和田 久継	公益社団法人ツーリズムおおいた	会長	

2 報告事項

(1) 県内宿泊客等の動向について

①県内宿泊客全体の動向

R5年4月の宿泊客数はコロナ禍前（R1年）と比べ、▲25.8%（速報値）



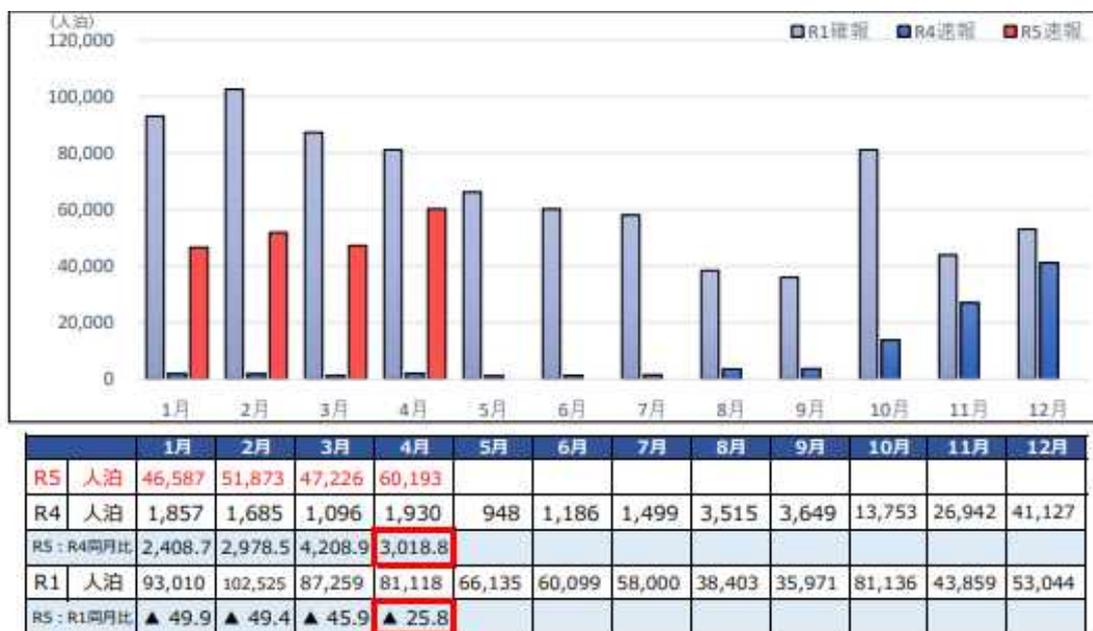
②日本人宿泊客の動向

R5年4月の日本人宿泊客数はコロナ禍前（R1年）と比べ、▲25.8%（速報値）



③外国人宿泊客の動向

R5年4月の外国人宿泊客数はコロナ禍前（R1年）と比べ、▲25.8%（速報値）



(2) 令和4年度大分県ツーリズム戦略関連事業実績

【戦略1】地域素材の磨き上げ

①「国内誘客総合推進事業」

主要コンテンツの強化・受入れ環境整備を実施した。

〈宇宙港を活用したツーリズムの推進〉

- ・観光事業者を対象に宇宙港をキーワードとした観光ビジネスについてのセミナーやワークショップを実施（R4.12、R5.2、R5.3 の計3回開催）

〈アドベンチャーツーリズムの推進〉

- ・世界標準のアドベンチャーツーリズムを学ぶセミナー、大分ならではの新たなコンテンツ創出に向けた事業者参加型のワークショップの開催（R4.11、R5.2 実施）

②「スペースポート推進事業」(先端技術挑戦課)

大分空港における水平型宇宙港の実現を図るため、法令・技術関係の調査や関係機関との調整を進めるとともに、スペースポートを核とした経済循環（エコシステム）の創出に取り組んだ。

〈宇宙港実現に向けた取組〉

- ・法令・技術関係の調査・調整を実施

〈エコシステム創出への取組〉

- ・宇宙ビジネス人材育成講座の開催
- ・衛星データ活用セミナー及びアイデアソンの開催
- ・中学生を対象とした模擬衛星の作成を行う CanSat イベントの開催
- ・高校生を対象とした Spaceport Cornwall（英国）との教育交流の実施
- ・県外で実施される宇宙ビジネス展示会への出展

③「観光産業リバイバル推進事業」

デスティネーションキャンペーンに向けて、地域自らが実施する観光課題の解決や観光素材の磨き上げの取組について、県が全面的に支援した。

〈観光産業復活に向けた前向きな取組への実証委託〉

- ・主要テーマ：食の魅力、観光消費、二次交通、インバウンド
- ・採択 26 事業
- ・採択例：県北地域におけるアドベンチャーツーリズム事業、ユニバーサルデザインのエコモビリティによるジオエコツアー事業（姫島村）、「大漁旗」を活用した地域のブランディング（佐伯市）

〈観光産業復活に向けた事業者への補助〉

- ・ 上記取組にあわせて、観光事業者等が実施する観光素材の磨き上げに関する経費を補助。
- ・ 補助率 3 / 4 限度額 2,250 千円
- ・ 採択 13 事業
- ・ 採択例：インバウンド向け多言語観光動画の制作、県内酒蔵めぐりのためのパンフレット制作

④「観光消費促進事業」

観光消費を拡大するため、観光サービス開発による観光客の滞在時間の延伸や観光案内所連携による県内周遊を促進した。

〈地域資源活用型観光サービス開発支援補助金〉

- ・ 補助率 1 / 2 以内、補助上限額 100 万円以内
- ※令和 4 年度 2 次公募については、宇宙に関連するサービスや雨天時に楽しめるサービス、二次交通の整備を含むサービス等、R6 の JR デスティネーションキャンペーンでの誘客のために重要なコンテンツとして県が特に認めるものについては、補助率 2 / 3 以内、補助上限額 1 3 3 万 3 千円以内に引上げ
- ・ 採択件数 (R4) 5 件、(R3) 7 件、(R2) 10 件
- ・ 採択例：健常者や障害者が同じフィールドで競技できるドローンサッカー体験事業、臼杵焼きの工房で実施する臼杵焼き作り体験事業

⑤「芸術文化施設を拠点とした観光循環創出事業」(芸術文化スポーツ振興課)

本県を訪れる観光客が様々な芸術文化施設やイベント開催地を往来し、地域を活性化する好循環を創出するため、県立美術館 (OPAM) を中核としたカルチャーツーリズム等を展開した。

〈OPAM の強みを活かした取り組み〉

- ・ 企画展と連携したツアーや宿泊パックの造成
- ツアー : 1 件造成
 - ①淡交社 晩秋の大分をめぐる竹工芸アートツアー「此君礼賛 -おおいた竹ものがたり」
- 宿泊パック : 3 件造成
 - ①庵野秀明展 (2/14-4/3) ホテル日航大分オアシスタワー、ホテルニューツルタ
 - ②コシノジュンコ展 (4/15-5/29) ホテル日航オアシスタワー

- ・相国寺展、iichiko 展と連携したバスツアーの開催
 - ①相国寺展 ツアー本数：17件 参加者総数：850人
 - ②iichiko design 展 ツアー本数：4本 参加者総数：98人
 - ・OPAM Web ツアーの開催
 - 実施回数：1回 参加者数：5人
 - ・上記ツアーの販売促進（SNS ターゲティング広告） 等
- 〈県内各地の強みを活かした取り組み〉
- ・県内観光地の「建築」や「現代アート」、「食」等と OPAM を組み合わせた体験プログラム・旅行商品の造成
- 〈OPAM のおもてなし力向上〉
- ・OPAM 施設案内デジタルサイネージ（多言語）の設置
 - ・アクセスマップの多言語化
 - ・デジタルミュージアムのコンテンツ拡充
 - ・地域文化資源を活用した商品開発（竹マグカップ×ウェールズ） 等

⑥「ラグビーワールドカップ 2019 レガシー継承事業」(芸術文化スポーツ振興課)

ラグビーワールドカップ 2019 のレガシーを継承するため、ラグビーの魅力や本県がセカンドホストエリアである横浜キヤノンイーグルスを活かした取組を行った。

〈ラグビーの普及・振興〉

- ・先端技術を活用したラグビー体験会を開催（5～3月）
 - （実施回数）10回（体験者数）1,653人
- ・大分県ラグビーフットボール協会と連携した幼稚園、小学校等へのラグビー体験会の開催（10～3月）
 - （実施回数）116回（体験者数）3,607人

〈プロチーム等との連携〉

- ・横浜キヤノンイーグルス等と連携した学校訪問を開催
 - （訪問先）西の台小学校・明野中学校（参加者数）250人
- ・横浜キヤノンイーグルス戦への県民招待を実施（4試合計7,758人）
- ・15人制ラグビー元日本代表・廣瀬俊朗氏と連携したラグビー講演会及び体験会の開催
 - ① 講演会
 - 日 程：令和4年4月9日（土）
 - テーマ：「ラグビーから学ぶダイバーシティ」
 - 来場者：115人

② 体験会

日 程：令和4年11月3日（木・祝）

内 容：タグラグビー、車いすラグビー、ビーチラグビー

参加者：105人

⑦「大分のサイクル魅力発信事業」

民間事業者等と連携し、サイクルを活用した滞在型観光モデルコースの作成等、2023年に開催されるツール・ド・九州を契機とした県内のサイクルツーリズムを推進した。

- ・大分県サイクルツーリズム推進委員会設立し、3回の委員会を実施
- ・民間事業等と連携し観光モデルコースを5コース設定し、PR動画を作成、県HPに掲載済み。また、既存サイクルハブ等の現状把握や県HPの改修を実施。
- ・ツール・ド・九州・山口と連携した周遊型旅行商品の造成とプロモーションとして、「ディスカバー九州」の展開（九州観光機構事業）

国内外のサイクリニストを対象にルート設定し商品造成を実施し2月発売済み

大分県対象コース：国内向け4コース、インバウンド向け2コース

⑧「ツーリズム推進基盤強化事業」

観光客の受入体制を強化するため、観光統計調査等の分析を行うとともに、アウトドアガイド認証制度の創設や着地型旅行商品の造成等を支援した。

〈観光統計調査等の分析〉

- ・専門人材を配置し、観光統計調査等の分析を実施中。分析結果は後日「観光マーケティング会議」で市町村や地域観光協会等の関係者に説明予定

〈アウトドアガイド認証制度〉

- ・県内のアウトドア事業者等で構成する「大分県アウトドアガイド認証制度検討委員会」を設立（7/13）、年度内に会議を5回開催し、制度創設に向けた検討結果を報告書にとりまとめて県に提言

〈着地型旅行商品の造成等〉

- ・市町村や地域観光協会等の着地型旅行商品の造成を支援し、販売サイト「テッパン！おおいた」に掲載（63件）
- ・インバウンドの受入れ再開を見据えた「テッパン！おおいた」の多言語対応（英・韓・中）、旅ナカ需要の取り込みに向けた電子クーポン機能の追加を実施

⑨「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進事業」(自然保護推進室)

ユネスコエコパークに登録されている祖母・傾・大崩地域の環境保全及び自然と共

生じた地域振興を図るため、宮崎県や関係市町と連携し魅力発信等を行った。

〈受入環境整備の支援〉

- ・ 県内エリア3市（佐伯・竹田・豊後大野）を対象として、自然に触れる機会の創出や利便性向上のためのキャンプ場・林道などの環境整備や誘客促進につながる取組等を支援
- ・ 川上溪谷の3吊橋点検、ロジキよかわのプレハブ倉庫購入、網戸及びビニールカーテン更新（豊後大野市）
- ・ 木浦名水館の薪ストーブ取替え修繕（佐伯市）
- ・ 神原溪谷の支障木伐採、地元ガイド向けの野外救急法講座の実施等（竹田市）

〈大分県ユネスコエコパークオフィシャルアーティスト「DRUM TAO」を活用した情報発信〉

- ・ エコパークエリアでの動画撮影
- ・ 「TAOの夏フェス（竹田市）」でのチラシ配布、動画放映等

〈エコパーク施設整備〉

- ・ 県管理の登山道の整備や避難小屋、トイレの改修等による登山者の安全性及び利便性の確保

⑩「おおいたジオパーク推進事業」(自然保護推進室)

姫島村及び豊後大野市のジオパーク活動を持続可能なものとするため、ジオパークの魅力が県内外に発信するとともに、両地域が行う受入態勢の整備等を支援した。

〈ジオパーク認知度向上及び誘客の促進〉

- ・ 福岡市でのPR（R4.6.20～26）
ジオサイトのフォトパネルをアクロス福岡で展示
- ・ 「発見！体験！大地の公園おおいたジオパークフェスタ」開催（R4.8.7）
大分いこいの道広場において、九州の各ジオパークと連携した体験ワークショップやPRブースを出展

〈ジオパーク活動の質の向上や受入態勢の整備支援〉

- ・ ジオガイドの養成、教育活動の推進
- ・ 案内看板の内容の充実や拠点施設等の整備

⑪「山の日レガシー推進事業」(自然保護推進室)

県内のアウトドア情報に特化したウェブサイトを開設するとともに、魅力の発信イベントを開催した。

〈ウェブサイトの開設〉

- ・県内のアウトドア情報に特化したウェブサイト「オオイタおそと時間」を R5.3 に開設し、臨場感と新鮮味のある記事4本を掲載
- ・アウトドアガイド認証制度及びアドベンチャーツーリズム等関連事業を実施する観光局と連携

〈PR イベントの開催〉

- ・「アウトドアフェア」開催 (R5.3.11)
大分駅北口駅前広場において、小枝で鉛筆を作る体験ワークショップやボルダリングやモルック等の体験ブースを設置

【戦略2】“おおいた”の魅力向上と効果的な情報発信

①「国内誘客総合推進事業」(再掲)

デジタルマーケティングの活用によるターゲットのニーズに応じた情報発信、誘客対策を実施した。

- ・ターゲット毎に県内観光スポット、観光素材を選定し、取材・撮影
- ・大手オンライン旅行会社予約サイト内でのランディングページ（2種類）制作 (R4.10、R4.12)
- ・ランディングページや SNS での情報発信及び予約サイトへの誘導
- ・データ分析及び次年度以降の誘客ターゲットの明確化・プロモーションの最適化検討

②「おおいたブランド戦略強化事業」(広報広聴課)

「おんせん県おおいた」のさらなるブランド力向上を図るため、ターゲットに応じた効果的な媒体を選択するとともに、最適なタイミングで情報を発信した。

〈web メディア「edit Oita」〉

- ・温泉に限らない、大分の意外な魅力を伝える記事の配信（4～3月：62本）
- ・読者を対象とした首都圏イベントの開催（10月）

〈web メディア「we are Oitan」〉

- ・郷土愛の醸成や魅力の再発見に向けた記事の配信（5～3月：30本）

〈宇宙ノオンセン県オオイタプロモーション（第2弾）～オオイタリウム～〉

- ・「宇宙港」開港に向けた機運醸成ともなる、PR 動画の制作・配信や協賛施設による「宇宙人割」などの実施（8～2月）

〈PR 会社を活用したパブリシティ（国内・海外）〉

○国内

- ・大分県の季節のトピックス等を紹介するニュースレターの配信（5～3月：10本）

- ・首都圏及び関西圏におけるメディアコンタクトの実施（5～3月：250回）
- ・首都圏等のメディアを対象としたイベントの開催（首都圏：9月、関西圏：11月）
- ・在京メディアツアーの実施（12月）

○海外

- ・在京海外メディアツアーの実施（12月）

〈大分県の魅力向上に向けた動画の放映〉

- ・大分トリニータホームゲーム時の動画配信（60回）

③「インバウンド推進事業」

ウェブサイトやSNS等を活用して、大分県の魅力や最新の観光情報等を海外に向けて発信した。

〈沸騰大分〉

- ・R2.10に開設した観光情報発信チャンネル「沸騰大分」(YouTube、Weibo、WeChat)の登録者数は270,498人（R5.3.31現在）
- ・令和4年度は留学生等と連携し、ネイティブの視点を盛り込んだ動画を制作・配信（YouTube）。この取組は、クールジャパン・プラットフォームアワード2023)のプロジェクト（事業）部門で優秀賞を受賞。

④「広域ツーリズム推進事業」

広域観光による誘客を図るため、本県単独の取組に加え、隣県や広域関係推進組織と連携した誘客対策を実施した。

- ・福岡県からの誘客促進を図るため、福岡県のメディアを活用し、大分・宮崎両県の観光スポットやグルメ・体験を番組内で放送。今年度も県外メディアやSNS等で大分・宮崎両県の情報発信を実施予定。
- ・旅行会社等と連携した九州横断軸（大分、熊本、長崎）3県周遊の旅行商品を造成し販売（R4.9～R5.3）

⑤「東アジア文化都市2022大分県開催事業」(芸術文化スポーツ振興課)

中国温州市・済南市、韓国慶州市と連携し、文化を通じた交流による東アジアの新たな未来を切り拓くため、多様な芸術文化イベントを実施・発信するほか、芸術文化団体による都市間交流等を行った。

〈開幕・閉幕式典〉

- ・開幕式典（5/22@ビーコンプラザ）ではマルタ・アルゲリッチ氏が開幕記念演奏を披露し、同時に日中韓の芸術文化に関して発表を行う特設ステージや交流都市

のPRも含めた芸術文化が体験できる文化体験ブースを設置。

- ・閉幕式典（11/6@大分県立美術館）では大分県立美術館前を歩行者天国とし、県内の芸術文化団体と韓国慶州市の芸術団体がそれぞれ音楽やパフォーマンスを披露した。

〈コア事業及び連携事業〉

- ・塩田千春展「巡る記憶」
- ・アーティスト・イン・レジデンス
- ・DRAM TAO 日中韓交流フェスティバル
- ・大分アジア彫刻展 紹介展
- ・日中韓現代作家交流展 in OITA 2022
- ・別府アルゲリッチ音楽祭シンポジウム
- ・県内市町村が実施する交流都市との交流を補助
- ・県内文化団体が実施する文化都市との交流や新しい取組を補助

⑥「ツール・ド・九州推進事業」(芸術文化スポーツ振興課)

サイクルスポーツの普及拡大とサイクルツーリズムを通じた地域活性化を図るため、R5年に日田市で開催予定のツール・ド・九州 2023 における大分ステージの準備を進めるとともに、機運醸成に向けたイベント等を実施した。

〈大会実行委員会による開催準備〉

- ・福岡県・熊本県・大分県、九州経済連合会、日本自転車競技連盟等からなる大会実行委員会による開催準備

〈市町村・警察等と連携した受入準備〉

- ・コース沿線の住民や企業と協力体制を構築し、交通規制の円滑な実施や着実な大会の受け入れ準備を進めた

〈大会に向けた機運醸成〉

- ・川開き観光祭に合わせた筋肉スーツパレード（日田市）
- ・サイクルイベントを活用した広報（日田市）
- ・サイクル食「開発」コンテスト、県内道の駅とタイアップしたスタンプラリー
- ・グルメライドイベント

⑦「デスティネーションキャンペーン推進事業」

R6年開催のキャンペーン成功に向け、実行委員会を立ち上げ、本番に向けた準備を開始した。

- ・福岡・大分両県実行委員会設立（7/4）、第2回総会（書面）

- ・大分県実行委員会設立（7/19）、第2回総会（3/20）
- ・企画運営委員会開催（8/26、R5.2/1、3/3、6/2）
- ・商品開発部会、おもてなし部会、販売促進・情報発信部会の開催（計10回）
- ・おんせん県おおいたおもてなし宣言とおもてなし団体の募集（3/20～）
- ・全国宣伝販売促進会議に向けた観光素材集等の作成、エクスクーション設定など
- ・プレキャンペーン「ごほうび福岡ごほうび大分」の準備

【戦略3】ポストコロナ時代に向けた戦略的な誘客

①「観光マーケティング推進事業」

観光産業の競争力強化と効率的な観光誘客を図るため、クレジットカードの使用履歴等から得られる観光客の消費動向等のデータを収集した。

- ・宿泊需要予測（日本観光振興協会所有の観光予報プラットフォーム活用）
- ・消費動向の分析（クレジットカードの使用履歴から、出発地別・エリア別の消費行動を分析）
- ・旅行者等の興味関心、行動調査（位置情報データや検索データ等を DS.INSIGHT、Datewise Area Marketer、おでかけウォッチャーから取得、レポート作成）
- ・分析情報還元のためのデジタル研修会の開催（R5.2）等

②「広域ツーリズム推進事業」(再掲)

広域観光による誘客を図るため、本県単独の取組に加え、隣県や広域関係推進組織と連携した誘客対策を実施した。

- ・福岡県からの誘客促進を図るため、福岡県のメディアを活用し、大分・宮崎両県の観光スポットやグルメ・体験を番組内で放送
- ・関西地区の旅行会社等と連携した九州横断軸（大分、熊本、長崎）3県周遊の旅行商品を造成し販売し3社にて展開（集客数：計342名）

③「国内誘客総合推進事業」(再掲)

圏域毎や商談会を活用した誘客対策、団体旅行向け誘客対策を実施。

〈首都圏〉

- ・素材説明会（R4.8、R5.2）、東京タワーPR（R4.11）、フラッグショップ活用情報発信（R5.1）等

〈関西〉

- ・素材説明会（R4.8、R5.2）、大阪事務所主催観光商談会（R5.2）、イオンモールフェア（R5.2）

〈九州・中四国〉

- ・マツダスタジアムPR (R4.5)、素材説明会 (R4.8、R5.2)
- ・各県外事務所と連携したセールス活動 (随時)

〈MICE 誘致〉

- ・MICE 商談会出展 (R5.2)、助成金を活用した誘致等

〈教育旅行誘致〉

- ・九州7県合同修学旅行説明会 (R4.8)、教育関係者向け情報発信 (R5.2)

④「観光誘客緊急対策事業」

〈新しいおおいた旅割〉

概要：補助率50%、上限5千円（日帰りは上限2千5百円）

満喫クーポン：上限2千円 ※R2.7 豪雨被災地温泉地（日田・天ヶ瀬・湯平・宝泉寺）は最大4千円

実施期間：R3.3.20～R4.10.10

〈新しいおおいた旅割第2弾（全国旅行支援）〉

概要：①割引率40%（上限：交通付旅行商品8千円、宿泊旅行上限5千円（日帰りを含む））※R4.10.11～R4.12.27 実施分

②割引率20%（上限：交通付旅行商品5千円、宿泊旅行上限3千円（日帰りを含む））※R5.1.10～R5.7.20 実施分

クーポン券：①平日上限3千円、休日上限1千円※R4.10.11～R4.12.27 実施分

②平日上限2千円、休日上限1千円※R5.1.10～R5.7.20 実施分

実施期間：R4.10.11～R5.7.20

⑤「インバウンド推進事業」(再掲)

インバウンドの復活に向け、東アジアのリピータ層や、ASEAN・欧州・大洋州等を対象に誘客対策を実施した。

- ・10ヶ国・地域に戦略パートナーを設置（韓国、中国、香港、台湾、シンガポール・マレーシア、タイ、ベトナム、欧州、豪州、ニュージーランド）
- ・相手国の水際対策や国際線の回復状況等を踏まえ、海外渡航を伴う誘客活動を再開（大分県単独商談会（台湾、韓国）、旅行会社招請ファムトリップ、旅行会社向けセミナー、旅行博 等）

【戦略4】多様化する観光産業に対応する受入環境の整備

①「観光消費促進事業」(再掲)

観光消費を拡大するため、観光サービス開発による観光客の滞在時間の延伸や観光案内所連携による県内周遊の促進を図った。

- ・観光案内所スタッフの全体交流会を2回開催し、延べ32施設46人が参加したほか、県内6ブロックの交流会を延べ12回開催
- ・観光案内所スタッフによる県内観光地相互視察を9地域で実施

②「公共交通活性化促進事業」(交通政策課)

コロナ禍で利用者が減少している交通機関の早期利用回復を図るため、各交通事業者の特性を生かした商品造成等を行った。

〈バス〉

- ・貸切バス事業の収益を改善して乗合バス路線の確保維持を図ることを目的に、一般社団法人大分県バス協会に対し、バスを利用した魅力ある旅行商品の造成等を委託。
- ・例：宇佐ぶどう狩りと長洲鱧しゃぶ御膳（日田バス）、佐賀関あじさばすて〜きっぷ（大分バス）

〈フェリー〉

- ・コロナ禍により海路による関西・四国地方等と本県の交流人口が減少していることから、各フェリー会社の特性を活かした企画商品の造成等を委託。
- ・例：船内バイキングや売店で利用できるクーポン券（フェリーさんふらわあ）ターミナル売店やロープウェイで利用できるクーポン券（国道九四フェリー）

〈飛行機〉

- ・航空会社と連携し本県への誘客を促進するため、航空券とクーポン等がセットになった企画商品等の造成及び販売を促すとともに、造成した企画商品等を発信
- 例：ダイナミックパッケージにオプションとして観光地等で使用できるクーポン券（JAL）、大分路線利用者に大分空港等で使用できるクーポン券（ANA）

③「大分空港海上アクセス整備事業」(交通政策課)

大分空港へのアクセス時間を短縮し、観光やビジネス等における利便性を高め、地方創生を加速させるため、R5年度中の運航開始に向けて、ホーバークラフトを調達するとともに、発着地におけるターミナルや駐車場、防音施設等の整備を進めた。

〈船舶調達〉

- ・大分空港と大分港西大分地区をつなぐ海上アクセスの導入に向け、イギリスの工場ではホーバークラフト3隻の建造中（納入期限R5.7、R5.10、R6.1）
- ・国内では大分にしかないホーバークラフトに、県民をはじめ、国内外からの来訪

者にも親しみや愛着を持ってもらえるよう、船体のラッピングデザインと船名の公募を実施（1番船「Ba i e n」、2番船「B a n r i」、3番船「T a n s o」）
〈発着地整備〉

- ・ホーバークラフト発着地の大分港西大分地区と大分空港に、宇宙港大分を象徴する魅力的なデザインのターミナルを整備（完成予定 R5.12 頃）
- ・大分港西大分地区の発着地を新たな交通結節点として、地域住民や観光客が気軽に訪れ、食事や散策等を楽しめる賑わい空間を創出するなど、周辺地域の活性化に繋げる

④「大分空港を起点とした MaaS 実証事業」(交通政策課)

ホーバークラフト就航に向け、大分空港を起点とした県内各地への最適な移動手段の検索や予約、決済等を一括で行えるよう、交通事業者等と連携し M a a S を活用した実証に取り組んだ。

〈大分空港を起点とした MaaS 検討部会の開催〉

- ・昨年度、第1回検討部会、第2回検討部会を開催
→交通分野の委員を中心に開催。内容は、大分空港における二次交通の現状、大分空港を起点とした MaaS の必要性、他県事例の紹介等
- ・第3回検討部会 R4.5.24 開催
→交通分野だけでなく、観光・宿泊・経済分野の委員を追加し、実証実験に向けて意見を集約
- ・第4回検討部会 R4.9.2 開催
→実証実験に向けた事業者調整やサービス内容の検討
- ・第5回検討部会 R5.2.21 開催
→実証実験の中間報告、次年度の方向性の検討

〈実証実験〉

- ・MaaS アプリ「my route」を使用した実証実験を R5.1.12～R5.3.31 に実施
- ・利用者数（デイリーアクティブユーザー数累計）：1,790 名
- ・「便利」「やや便利」と回答した人は 84%
- ・利用可能なサービスの拡大や広報が課題

⑤「九州の東の玄関口としての拠点化推進事業」(交通政策課)

九州の東の玄関口として、多くの人・物が本県を介して九州内外を行き来する状況をつくることで、経済活性化・雇用創出を促進し、地方創生を加速させた。

〈「大分空港・宇宙港将来ビジョン」の策定〉

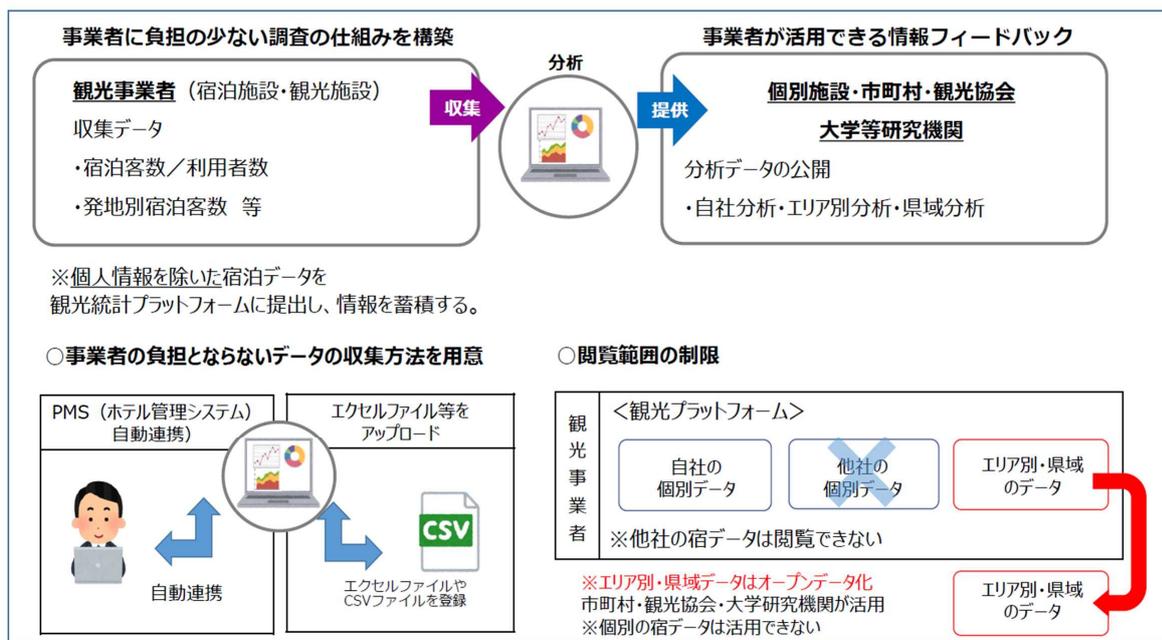
- ・大分空港が目指すべき将来像を官民で共有し、その実現に向けた取組を一体となって戦略的に推進するため、施策展開の方向性や空港運営のあり方を示した「大分空港・宇宙港将来ビジョン」を策定
- ・乗降客数目標として、ビジョン策定から 10 年後である R 14(2032)年度までに年間約 260 万人を目指す

【戦略5】DX 導入や人材の確保・育成等による観光産業の振興

①「宿泊事業者デジタル活用促進事業」

宿泊事業者の経営力向上や課題解決を促進するため、宿泊者数等の観光関連データを集約する大分県観光統計調査システムを構築し、例えば、各事業者がエリア内の宿泊者数の発地別分析した上で、誘客対策を行うなど経営戦略に活用できるシステムを構築した。

【大分県観光統計システム概要】



〈宿泊業現場リーダー研修〉

- ・宿泊施設の次世代を担う現場リーダーを対象に「顧客満足度・従業員満足度向上」「デジタルマーケティング」「SDGs」について学ぶ研修会を開講、11人が受講
- 〈宿泊業経営力強化事業費補助金 (R1は宿泊施設受入環境整備事業費補助金)〉
- ・補助率 1/2 以内、補助上限額 250 万円以内
 - ・採択件数 (R4) 8 件、(R3) 15 件、(R2) 12 件、(R1) 13 件
 - ・採択例：厨房作業を効率化する機器の導入、新規プラン造成に向けた施設改修等
- 〈地域連携実証事業〉
- ・食事提供や資材仕入れに係る生産性向上、保有資産の有効活用、連泊需要への対応

応など地域の事業者が連携して行う課題解決に向けた具体的な取組の実証事業を4地域（日田、天ヶ瀬、湯平、国東）で実施

③「おもてなし人材育成事業」

おもてなし体制の強化に取り組むとともに、魅力ある観光地づくりを担う人材の育成・活用を推進した。

〈ツーリズム大学〉

- ・地域資源を生かしたツーリズムの振興やネットワークづくりを通じた地域リーダー育成を目的としてH19年開始、修了生は合計358名（～R4修了生含む）
- ・今年度は16名の受講生を迎え、各自の課題解決に向けて講義や体験、視察等を7月～3月にかけて計11回実施した

〈おおいたふるさとガイドの資質向上と連携強化〉

- ・県内各地域の「大分県ふるさとガイド連絡協議会」加盟団体の交流と連携強化、また、情報交換などを通じて、大分県に訪れた方へのサービス向上を図り、大分県の魅力向上と心のこもったおもてなしを推進
- ・交流研修会（11/21@大分市）
- ・九州各県観光ボランティアガイド研修会・代表者会議
- ・まち歩き動画の英語字幕制作
- ・オンラインツアーの実施（3/18@玖珠町）
- ・JRデスティネーションキャンペーンに向け、まち歩きコース紹介パンフレット（日本語・英語）作成及びツーリズムおおいたHPでの情報発信

④「観光おもてなし環境整備事業」

福岡・大分デスティネーションキャンペーンやインバウンドの回復による観光客の増加に対応するため、安心・安全で快適な旅を支える環境の整備に着手した。

〈「おんせんおおいたWi-Fi」アクセスポイント機器更新〉

- ・Wi-Fiアクセスポイント掲示資材を作成

〈観光案内標識等の改修〉

- ・観光案内標識の施設名称やピクトグラムの統一、英語表記の改善等を実施

(3) 令和5年度大分県ツーリズム戦略関連事業の取組状況

【戦略1】地域素材の磨き上げ

①「国内誘客総合推進事業」

主要コンテンツの強化・受入れ環境整備を実施する。また、観光消費を拡大するため、観光サービス開発による観光客の滞在時間の延伸や県内周遊を促進する。

〈宇宙港を活用したツーリズムの推進〉

- ・観光事業者を対象に宇宙港をキーワードとした観光コンテンツの伴走支援を実施

〈アドベンチャーツーリズムの推進〉

- ・大分ならではの新たなコンテンツ創出に向け、専門家による伴走支援を実施

〈地域資源活用型観光サービス開発支援補助金〉

- ・観光消費を拡大するため、観光サービス開発による観光客の滞在時間の延伸や観光案内所連携による県内周遊を促進する。
- ・補助率 2 / 3 以内、補助上限額 133 万 3 千円以内
- ・これまでの採択件数 (R4) 5 件、(R3) 7 件、(R2) 10 件

②「スペースポート推進事業」(先端技術挑戦課)

大分空港における水平型宇宙港の実現を図るため、法令・技術関係の調査や関係機関との調整を進めるとともに、スペースポートを核とした経済循環（エコシステム）の創出に取り組む。

〈宇宙港実現に向けた取組〉

- ・法令・技術関係の調査・調整

〈エコシステム創出への取組〉

- ・宇宙ビジネス人材育成講座の開催
- ・衛星データ活用セミナーの開催
- ・中学生を対象とした模擬衛星の作成を行う CanSat イベントの開催
- ・高校生を対象とした Spaceport Cornwall（英国）との教育交流の実施
- ・将来の人材育成を見据え、若者世代を対象とした宇宙教育関連イベントの実施

③「大分のサイクル魅力発信事業」

民間事業者等と連携し、サイクルを活用した滞在型観光モデルコースの作成等、今年開催されるツール・ド・九州を契機とした県内のサイクルツーリズムを推進する。

- ・大分県サイクルツーリズム推進委員会の開催を予定（3回）
- ・観光モデルコース（2コースの予定）を新たに造成し、更なる大分県におけるサイクルツーリズムの推進を行う。
- ・ツール・ド・九州・山口と連携した周遊型旅行商品の造成とプロモーションとして、「ディスカバー九州」の継続展開（九州観光機構事業）

④「ツーリズム推進基盤強化事業」

観光客の受入体制を強化するため、観光統計調査等の分析とアウトドアガイド認証

制度の運用を行うとともに、着地型旅行商品の造成等を支援する。

〈観光統計調査等の分析〉

- ・専門人材を配置し、観光統計調査等の分析を実施中。分析結果は後日「観光マーケティング会議」で市町村や地域観光協会等の関係者に説明予定

〈アウトドアガイド認証制度の運用〉

- ・「大分県自然体験ガイド」の登録を実施
- ・大分県自然体験ガイドと県その他関係機関で「大分県アウトドアガイド認証制度運営協議会」を設立し、アウトドアガイド認証制度を運用

〈着地型旅行商品の造成等〉

- ・市町村や地域観光協会等の着地型旅行商品の造成を支援し、販売サイト「テッパン！おおいた」に掲載

⑤「山の日レガシー推進事業」(自然保護推進室)

ウェブサイト「オオイタおそと時間」において、県内のアウトドアスポットや自然保護団体等に関する情報収集・掲載し、アウトドア体験を通じた県民の自然環境保全意識向上に努める。

〈スポットや自然保護団体等の情報収集・掲載〉

- ・自然体験スポットや各種アクティビティ等を提供する事業者のほか、自然保護団体の情報もさらに充実させる
- ・アウトドアの魅力伝える記事を年度内に24本以上制作予定（うち地域横断型や周遊型、新たに造成した体験に関する記事も含む予定）
- ・アウトドアガイド認証制度及びアドベンチャーツーリズム等関連事業を実施する観光局と連携

【戦略2】“おおいた”の魅力向上と効果的な情報発信

①「国内誘客総合推進事業」(再掲)

デジタルマーケティングの活用によるターゲットのニーズに応じた情報発信、誘客対策を実施する。

- ・ターゲット毎に県内観光スポット、観光素材を選定し、取材・撮影
- ・ペルソナ別に内容を変えたランディングページ制作
- ・デジタル広告配信やSNS投稿での情報発信及びTO内特設ランディングページへ誘引
- ・データ分析及び次年度以降の誘客ターゲットの明確化・プロモーションの最適化検討

②「おおいたブランド戦略強化事業」(広報広聴課)

「おんせん県おおいた」のさらなるブランド力向上を図るため、ターゲットに応じた効果的な媒体を選択するとともに、最適なタイミングで情報を発信する。

〈web メディア「edit Oita」〉

- ・温泉に限らない、大分の意外な魅力を伝える記事の配信（4～3月）

〈宇宙ノオンセン県オオイタプロモーション（第3弾）〉

- ・「宇宙港」開港に向けた機運醸成ともなる、「大分＝宇宙」のイメージを定着させるプロモーションの実施（※5/22 現在、具体内容は協議中）（8～2月予定）

〈PR 会社を活用したパブリシティ（国内・海外）〉

○国内

- ・ニュースレターの配信やメディアコンタクトなどによる首都圏等での情報発信（4～3月）

○海外

- ・在京海外メディアツアーの実施（※年度内に1回）

〈デジタル広告〉

- ・SNS 広告など、デジタル媒体を活用した情報発信（※5/22 現在、時期等未定）

〈大分県の魅力向上に向けた動画の放映〉

- ・大分トリニータホームゲーム時の動画配信（60回）

③「インバウンド推進事業」

ウェブサイトやSNS等を活用して、大分県の魅力や最新の観光情報等を海外に向けて発信する。

- ・留学生等と連携した動画の制作・配信（YouTube）
- ・その他、各種SNSを活用した情報発信（Weibo、WeChat、Facebook、Instagram等）

④「広域ツーリズム推進事業」

広域観光による誘客を図るため、本県単独の取組に加え、隣県や広域関係推進組織と連携した誘客対策を実施する。

- ・県外メディアやSNS等で大分・宮崎両県の情報発信を実施
- ・旅行会社等と連携した九州横断軸（大分、熊本、長崎）3県周遊の旅行商品を造成し販売（R5.10～R6.2 予定）

⑤「ツール・ド・九州推進事業」(芸術文化スポーツ振興課)

サイクルスポーツの普及拡大とサイクルツーリズムを通じた地域活性化を図るた

め、国際自転車ロードレース「ツール・ド・九州」の大会運営や盛り上げを図るほか、当日の集客に繋げるための情報発信を強化する。

〈大会実行委員会による大会運営〉

- ・福岡県・熊本県・大分県、九州経済連合会、日本自転車競技連盟等からなる大会実行委員会による大会運営を補助する。

〈受入・おもてなし〉

- ・来場者のおもてなしを実施するため、警察等と連携した円滑な交通規制の実施に加え、シャトルバスの運行や集客エリアでのイベントを実施する。

〈大会周知〉

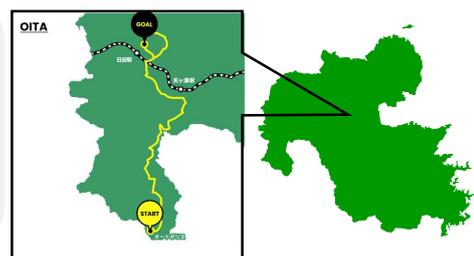
- ・県内各地のイベントに併せた大会 PR や独自イベントの実施などにより県内一円に大会開催を周知する。
- ・大会 PR 動画の作成や SNS の活用、ターゲティング広告等も活用し県外からの誘客にも繋げる。
- ・大会カラーでレース会場周辺を染める「イエロープロジェクト」を展開し、地域の方と一緒に大会の盛り上げを図る。

2023年10月6日（金）：小倉城クリテリウム

2023年10月7日（土）：福岡ステージ

2023年10月8日（日）：熊本阿蘇ステージ

2023年10月9日（月）：大分ステージ



⑥「 destinations キャンペーン推進事業」

R6年開催のキャンペーン成功に向け、本番に向けた準備を推進。

- ・福岡・大分両県実行委員会（第3回総会 6/27）、大分県実行委員会の開催（第3回総会 6/22）
- ・企画運営委員会、各部会の開催
- ・おんせん県おおいたおもてなし宣言イベントの開催（4/19）
- ・観光素材集等の作成、全国宣伝販売促進会議・エクスカージョンの実施（5/10～12）
- ・プレキャンペーン「ごほうび福岡ごほうび大分」との連携（4/1～9/30）
- ・JR博多駅、大阪駅等での観光 PR イベントの実施
- ・坐来大分を活用した主要メディアプロモーションやツーリズム EXPO 等イベントへの出展によるプロモーションの実施
- ・全国の J R 主要駅での月別重点ポスター掲載（R6.3）
- ・観光客向け観光ガイドブックの制作 など

【戦略3】ポストコロナ時代に向けた戦略的な誘客

①「広域ツーリズム推進事業」(再掲)

広域観光による誘客を図るため、本県単独の取組に加え、隣県や広域関係推進組織と連携した誘客対策を実施する。

- ・ 県外メディアや SNS 等で大分・宮崎両県の情報発信を実施
- ・ 旅行会社等と連携した九州横断軸（大分、熊本、長崎）3 県周遊の旅行商品を造成し販売（11 月予定）

②「国内誘客総合推進事業」(再掲)

圏域毎や商談会を活用した誘客対策、団体旅行向け誘客対策を実施。

〈首都圏〉

- ・ 素材説明会（R5.8、R6.2 予定）、東京タワーPR（R5.11 予定）、フラッグショップ活用情報発信（R6.2 予定）等

〈関西〉

- ・ 素材説明会（R5.8、R6.2 予定等）、イオンモールフェア（R6.2 予定）

〈九州・中四国〉

- ・ マツダスタジアム PR（R5.6）、素材説明会（R5.8、R6.2 予定）
- ・ 各県外事務所と連携したセールス活動（随時）

〈MICE 誘致〉

- ・ MICE 商談会出展（R6.2 予定）、助成金を活用した誘致等

〈教育旅行誘致〉

- ・ 九州 7 県合同修学旅行説明会（R5.8）、教育関係者向け情報発信（R6.2 予定）

③「観光誘客緊急対策事業」

〈新しいおおいの旅割第 2 弾（全国旅行支援）〉

概要 割引率 20%（上限：交通付旅行商品 5 千円、宿泊旅行上限 3 千円
（日帰りを含む））

クーポン券 平日上限 2 千円、休日上限 1 千円

実施期間 R4.10.11～R5.7.20

④「国内観光需要回復促進事業」

「全国旅行支援」終了後も引き続きコロナ禍からの観光関連産業の回復を図るため、宿泊客を対象とした地域クーポンを配布。

金額、開始時期：未定

⑤「インバウンド推進事業」(再掲)

インバウンドの完全復活に向け、大型イベント等を契機に、福岡県等と連携を図り、東アジアを中心に周遊客の獲得に取り組む。また、観光消費の旺盛な欧州や ASEAN 諸国からの誘客を図るため、大分の自然や歴史・文化を生かした高付加価値な観光コンテンツの創出にも取り組む。

- ・ 9ヶ国・地域に戦略パートナーを活用した各種誘客活動を展開
(韓国、中国、香港、台湾、シンガポール・マレーシア、タイ、ベトナム、欧州、豪州・ニュージーランド)
- ・ 福岡県や JR九州と連携を図り、destination キャンペーンを活用した誘客対策を実施
- ・ 観光コンテンツの高付加価値化を図るため、コンテンツの掘り起こしやモデルコースの造成、事業者を対象とした研修、ランドオペレーターとのマッチング交流会等の実施

【戦略4】多様化する観光産業に対応する受入環境の整備

①「大分空港海上アクセス整備事業」(交通政策課)

大分空港へのアクセス時間を短縮し、観光やビジネス等における利便性を高め、地方創生を加速させるため、令和5年度中の運航開始に向けて、ホーバークラフトを調達するとともに、発着地におけるターミナルや駐車場、防音施設等を整備する。

〈船舶調達〉

- ・ 大分空港と大分港西大分地区をつなぐ海上アクセスの導入に向け、イギリスの工場にホーバークラフト3隻を建造・納入（納入期限 R5.7、R5.10、R6.1）

〈発着地整備〉

- ・ ホーバークラフト発着地の西大分地区と大分空港に、宇宙港大分を象徴する、なだらかに空へと向かって上昇していく外観のターミナルを整備（完成予定 R5.12 頃）
- ・ 西大分地区の発着地を新たな交通結節点として、地域住民や観光客が気軽に訪れ、食事や散策等を楽しめる賑わい空間を創出するなど、周辺地域の活性化に繋げる

【戦略5】DX 導入や人材の確保・育成等による観光産業の振興

①「おもてなし人材育成事業」

- おもてなし体制の強化に取り組むとともに、魅力ある観光地づくりを担う人材の育成・活用を推進する。

〈ツーリズム大学〉

- ・地域資源を生かしたツーリズムの振興やネットワークづくりを通じた地域リーダー育成を目的としてH19年開始、修了生は合計358名（～R4修了生含む）
- ・15名程度の受講生を迎え、各自の課題解決に向けて講義や体験、視察等を7月～3月にかけて計10回実施する。

〈おおいたふるさとガイドの資質向上と連携強化〉

- ・県内各地域の「大分県ふるさとガイド連絡協議会」加盟団体の交流と連携強化、また、情報交換などを通じて、大分県に訪れた方へのサービス向上を図り、大分県の魅力向上と心のこもったおもてなしを推進
- ・ガイド情報交換会やスキル向上研修
- ・九州各県観光ボランティアガイド研修会・代表者会議
- ・まち歩き動画の英語字幕制作
- ・SNSによるガイドの魅力発信やデジタル広告を利用した情報発信

* 令和5年度補正予算(一般会計)要求の主な事業概要

(部局名：商工観光労働部)

(単位：千円)

事業名	令和5年度 補正要求額 <累計額> 〔令和4年度 当初予算額〕	事業概要	所管課
国内誘客総合推進事業	80,000 <283,402> (119,574)	【特】福岡・大分DCにおける誘客効果の更なる向上と県内での観光消費拡大を促進するため、旅行者を対象とした地域クーポンを配布する。	観光誘致促進室
宿泊業経営力強化加速化事業	27,414 <35,840> (0)	宿泊事業者の経営力強化を一層進めるため、ユニバーサルツーリズムへの対応、DXの導入及び人材確保に取り組む事業者を幅広く支援する。 【特】施設改修、業務効率化のための取組に対する支援 【特】学生のインターンシップに関する事業者向けセミナーの開催	観光政策課